

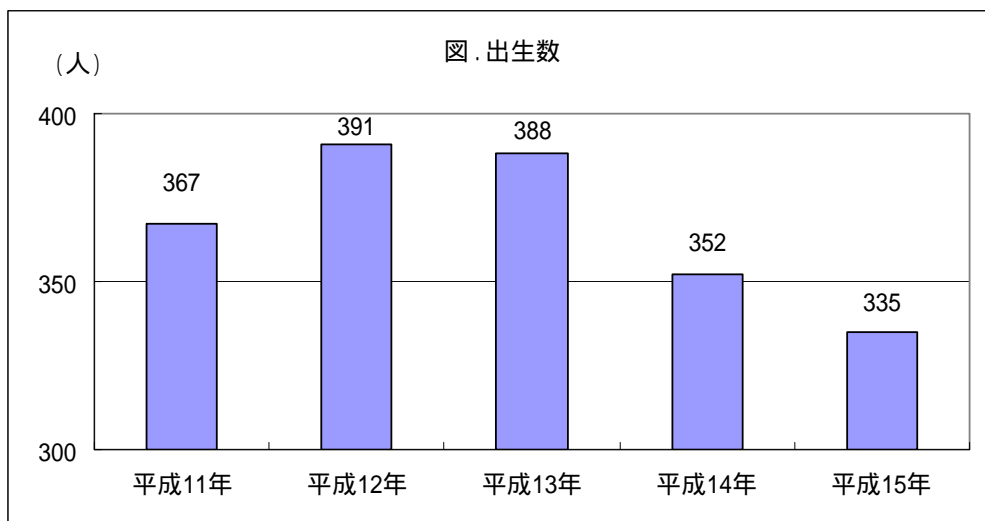
第2章

現状把握

第2章 現状把握

1 本市の出生の動向

(1) 出生数



(人口動態統計)

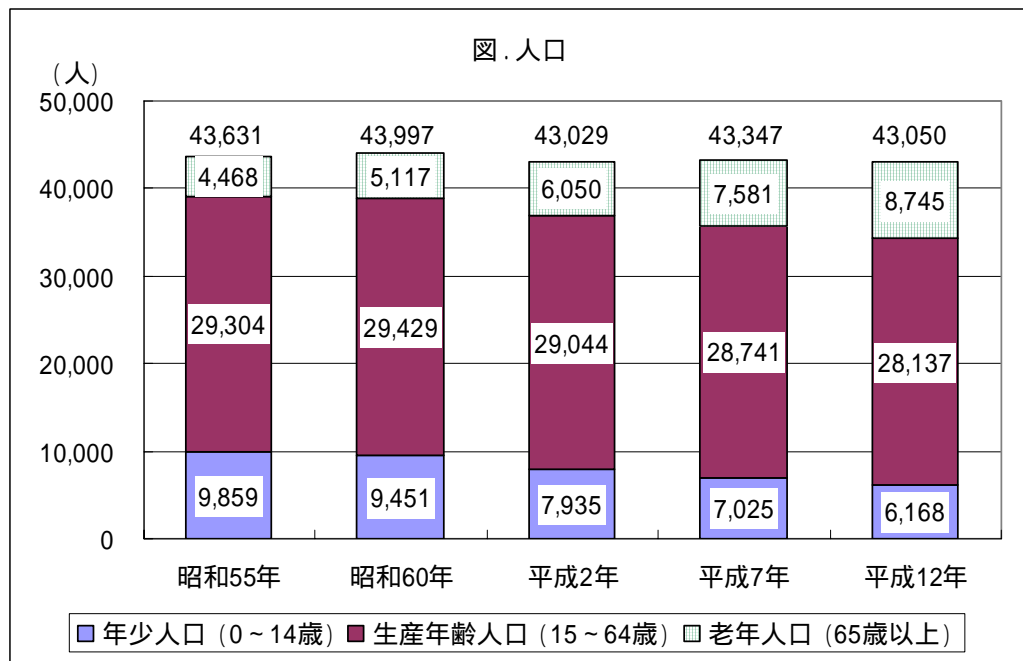
出生数について

平成12年に391人となり、過去5年間で最も高くなっていたものの以降減少しており、平成15年には335人となっています。平成11年と比べ32人減少しています。

2 人口・世帯の状況

(1) 人口の状況

[1] 人口

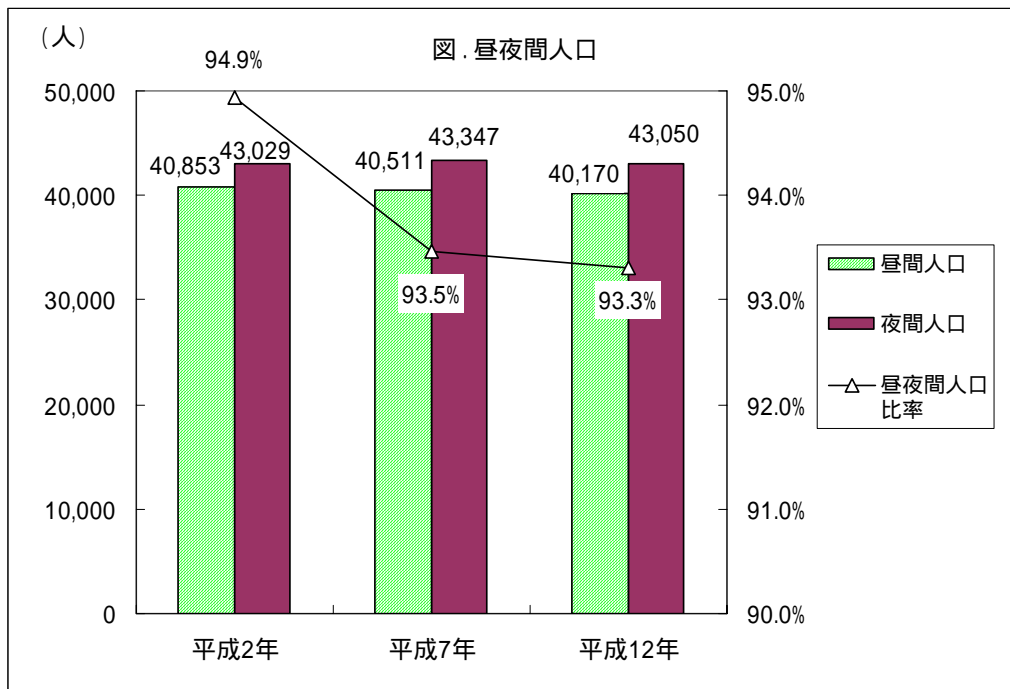


(国勢調査)

人口について

年少人口は年々減少する一方、老年人口が増加しています。まず、年少人口を見てみると、昭和55年の9,859人が平成12年には6,168人となっており、約3,700人も減少しています。一方、老年人口は昭和55年の4,468人に対し、平成12年には8,745人となっており約4,300人も増加しています。生産年齢人口には大きな変化が見られないことより、本市においても少子高齢化が進んでいる現状となっています。

[2] 昼夜間人口比率



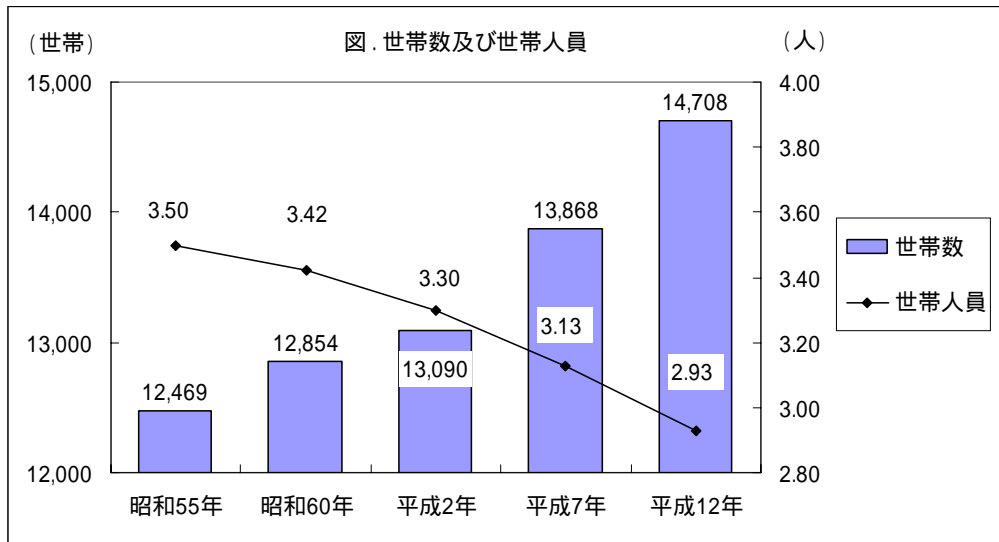
(国勢調査)

昼夜間人口について

昼間人口（昼間、市内にいる人口のことで他の市町村から働きに、学校に来ている人も含まれます）は減少していますが、夜間人口（常住人口といい夜間市内にいる人口）は増減があるものの、ほぼ横ばい状態となっています。また、昼夜間人口比率は減少傾向にあります。昼夜間人口比率が 100%より少ないことにより、本市はベッドタウンとしての色彩が強くなっています。

(2) 世帯の状況

[1] 世帯数と世帯人員



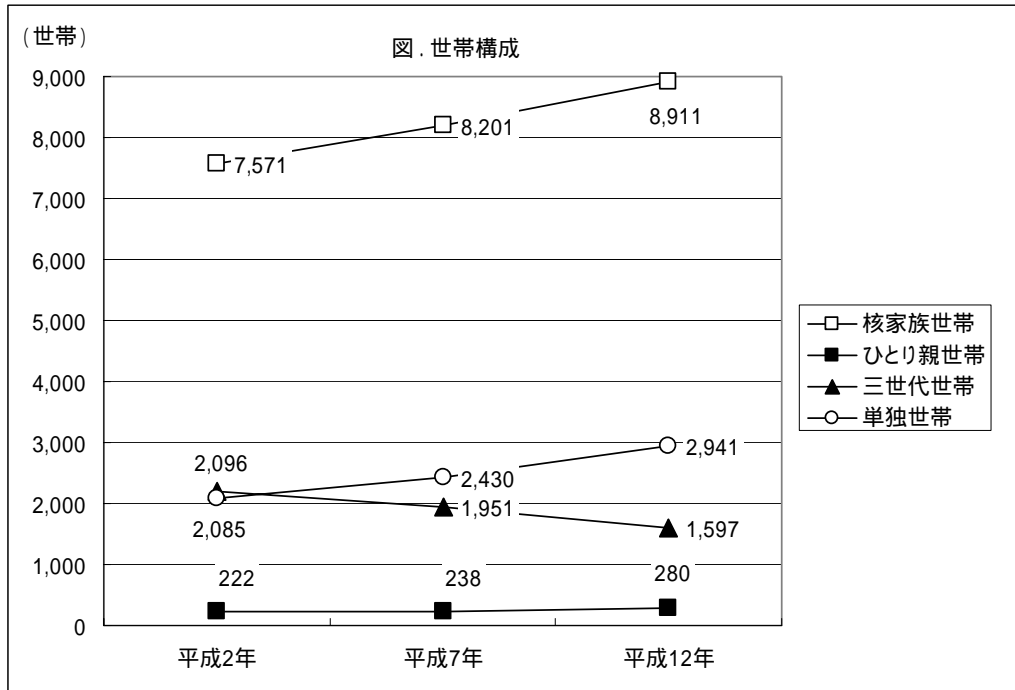
(国勢調査)

世帯数、平均世帯人員について

世帯数は緩やかに増加しており平成12年には14,708世帯となっています。一方、世帯人員は減少しており、平成12年には2.93人となっており、昭和55年から平成12年までの20年間で0.57人の減少となっています。



[2]世帯構成



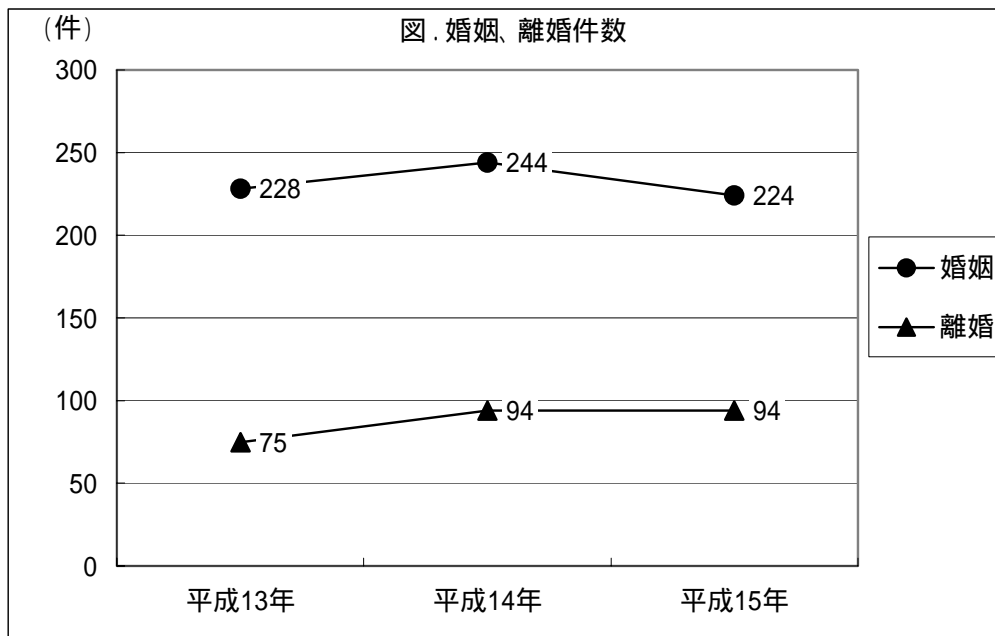
(国勢調査)

世帯構成について

世帯構成を見ると平成 2 年から平成 12 年にかけて、核家族世帯 1,340 世帯増加、単独世帯 856 世帯増加、ひとり親世帯 58 世帯増加となっています。逆に三世帯世帯は 499 世帯減少となっており、世帯構成が大きく変化しています。

* 核家族世帯にはひとり親世帯が含まれています。

3 婚姻・離婚の状況



(住民基本台帳)

結婚、離婚件数について

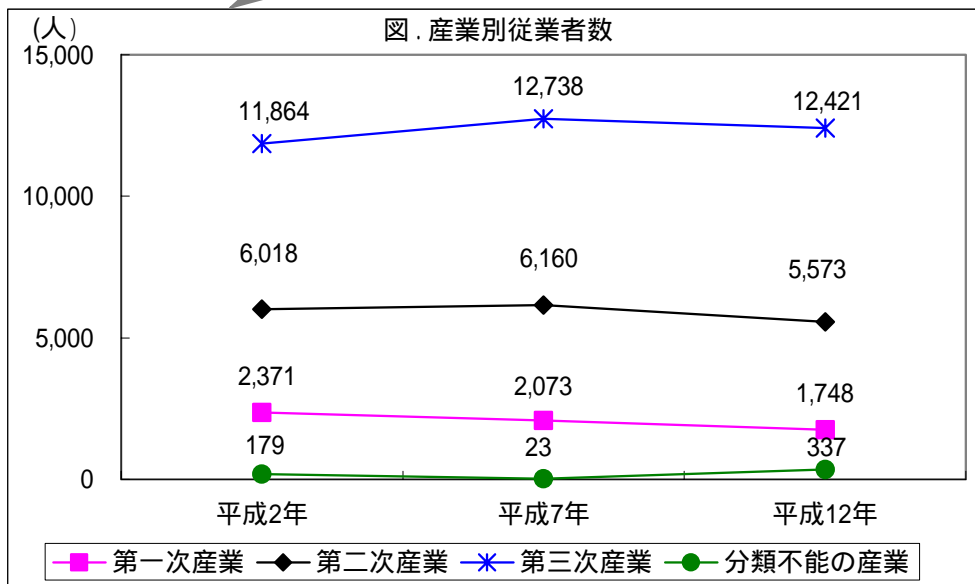
婚姻件数は平成13年から平成15年にかけて、一度増加したもののほぼ横ばい状態になっています。一方、離婚件数は平成13年の75件から平成15年の94件に増加しています。



4 就業の状況

(1) 産業別就業者数

第一次産業 農業、林業、漁業
第二次産業 鉱業、建設業、製造業
第三次産業 卸売、小売業、電気、ガス、熱供給、水道業、運輸、
通信業、金融、保険業、不動産業、サービス業、公務

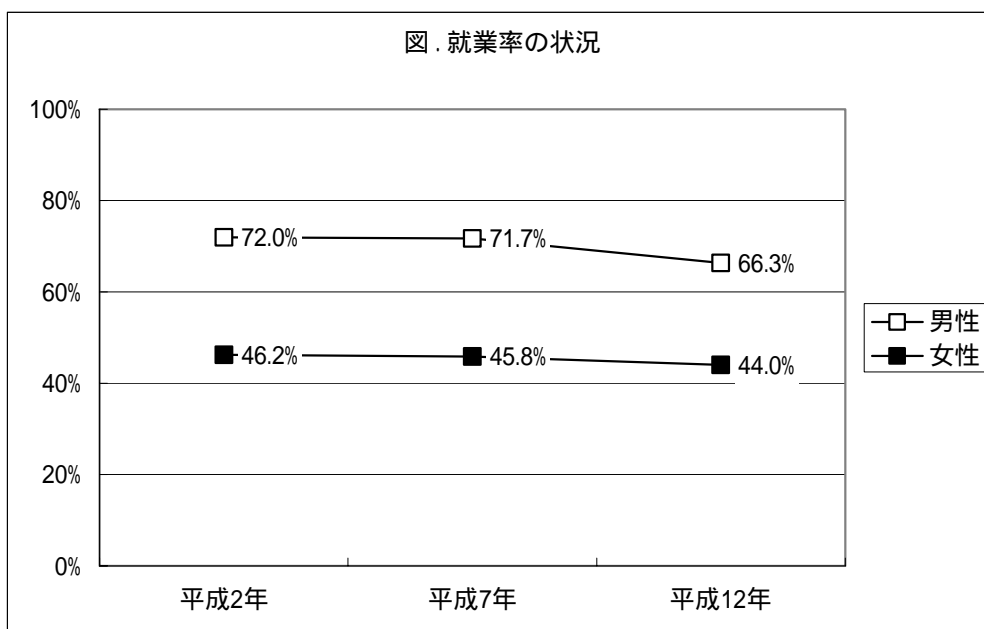


(国勢調査)

産業別就業者数について

第一次・第二次産業ともに年々減少傾向にあります。第一次産業を見ると平成2年に2,371人であったのに対し、平成12年には1,748人となっており、約620人減少しています。一方、第三次産業は緩やかな増加傾向にあり、平成2年に11,864人であったのに対し、平成12年には12,421人となっており、約560人増加しています。

(2) 男女別就業率



(国勢調査)

男女別就業率について

男女ともに就業率は低下傾向にあり、平成12年で男性66.3%、女性44.0%となっています。

5 児童虐待相談の状況 (児童相談所)

単位：件

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
小松島市	5	6	5	3	41
徳島県	76	90	129	132	270
全国	11,631	17,725	23,274	23,738	26,573

児童虐待相談件数について

年々増加傾向にあり、平成15年度の41件と平成14年度の3件を比べ、38件増加しています。また県・全国も同様に年々増加しています。

6 将来の推計人口

平成 17 年から平成 21 年における小松島市の児童人口の推計は、昭和 60 年・平成 2 年・平成 7 年・平成 12 年の国勢調査データ（10 月 1 日のもの）をもとにコーホート変化率法を用いて推計しました。次に計画の開始年度である平成 17 年から 5 年間の将来推計をみると、下の表のようになっています。

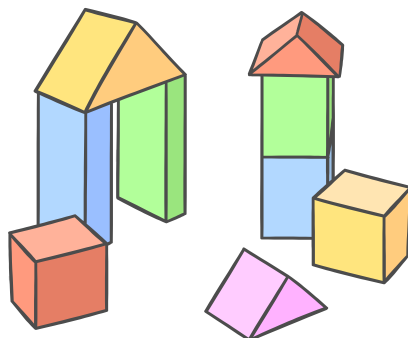
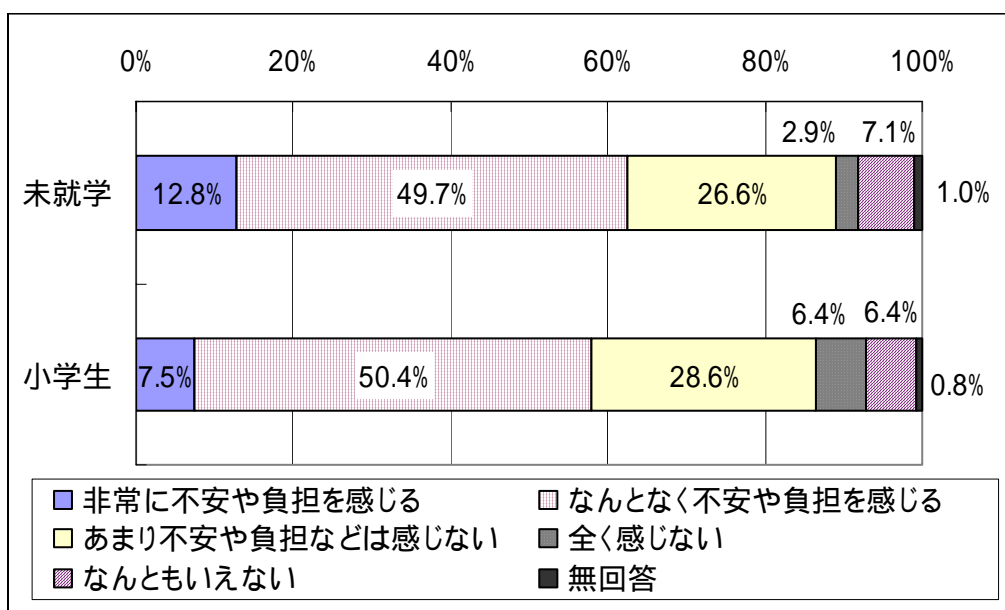
児童人口は合計で平成 17 年 7,172 人、平成 18 年 7,050 人、平成 19 年 6,938 人、平成 20 年 6,833 人、平成 21 年 6,713 人と推計され、合計児童数は年々減少傾向にあります。また年齢階層別の人口をみると、0 歳～5 歳、6 歳～11 歳、12 歳～17 歳において、減少傾向をとるものと推計されます。これにより小松島市でも、全国と同様に児童数が減少するものと思われれます。

年 齢	児 童 人 口				
	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
合 計	7,172人	7,050人	6,938人	6,833人	6,713人
0歳	384人	378人	367人	355人	342人
1歳	370人	365人	354人	344人	332人
2歳	392人	387人	375人	363人	351人
3歳	382人	378人	367人	356人	343人
4歳	390人	386人	374人	362人	350人
5歳	361人	358人	360人	363人	365人
小 計	2,279人	2,252人	2,197人	2,143人	2,083人
6歳	369人	370人	372人	375人	377人
7歳	372人	373人	375人	378人	380人
8歳	380人	380人	382人	385人	387人
9歳	390人	388人	390人	393人	396人
10歳	364人	356人	353人	350人	347人
11歳	398人	388人	384人	382人	379人
小 計	2,273人	2,255人	2,256人	2,263人	2,266人
12歳	412人	401人	397人	394人	390人
13歳	401人	391人	388人	385人	381人
14歳	410人	401人	397人	394人	390人
15歳	446人	431人	416人	401人	385人
16歳	471人	455人	439人	422人	405人
17歳	480人	464人	448人	431人	413人
小 計	2,620人	2,543人	2,485人	2,427人	2,364人

(各年4月1日現在)

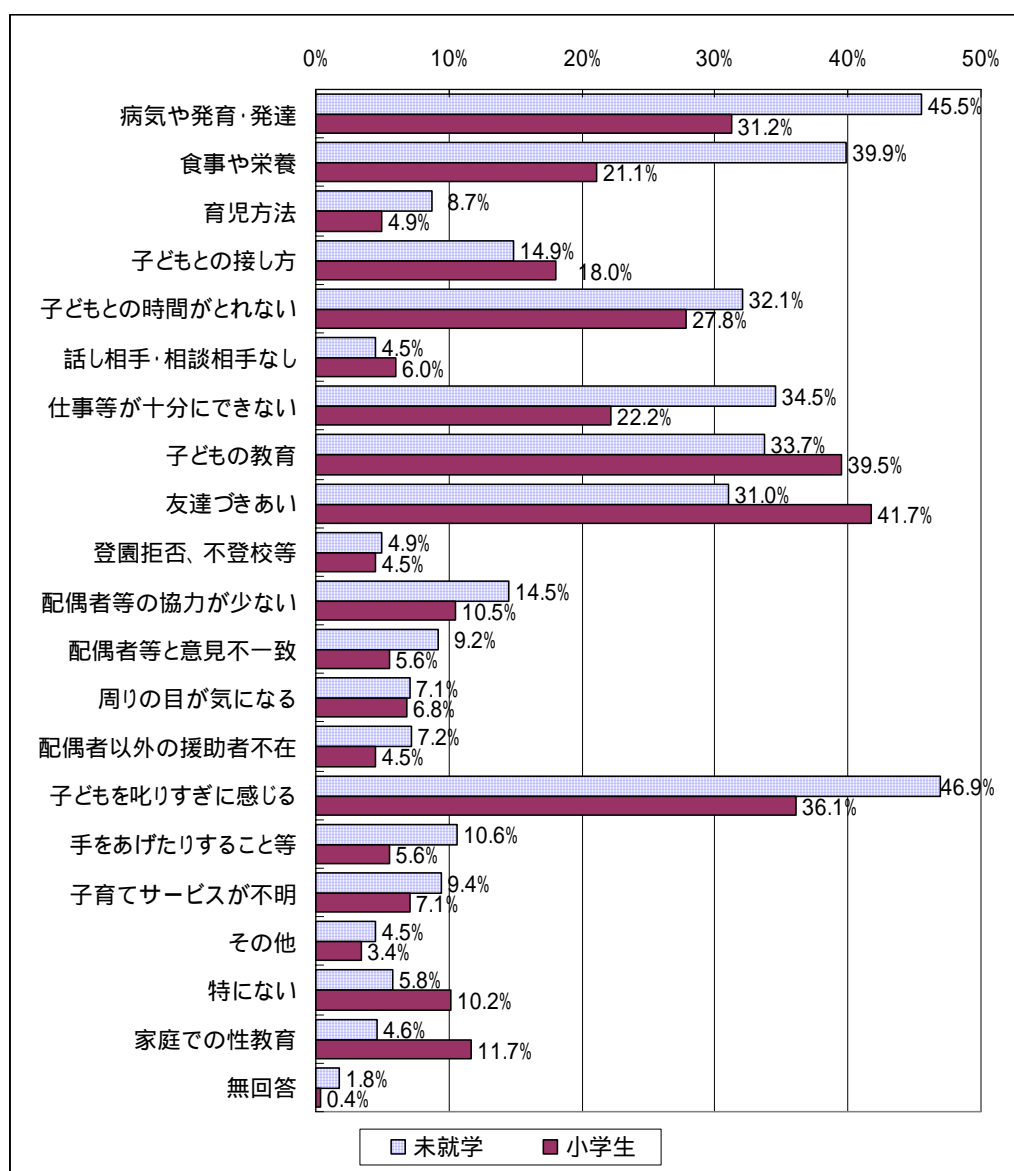
(1) 子育てに関する不安感や負担感について

子育てに関する不安感や負担感について見てみると、「非常に不安や負担を感じる」「なんとなく不安や負担を感じる」が未就学で62.5%、小学生で57.9%となっており、約60%の方が不安感や負担感を感じています。



(2) 子育てに関して日常悩んでいること・気になること

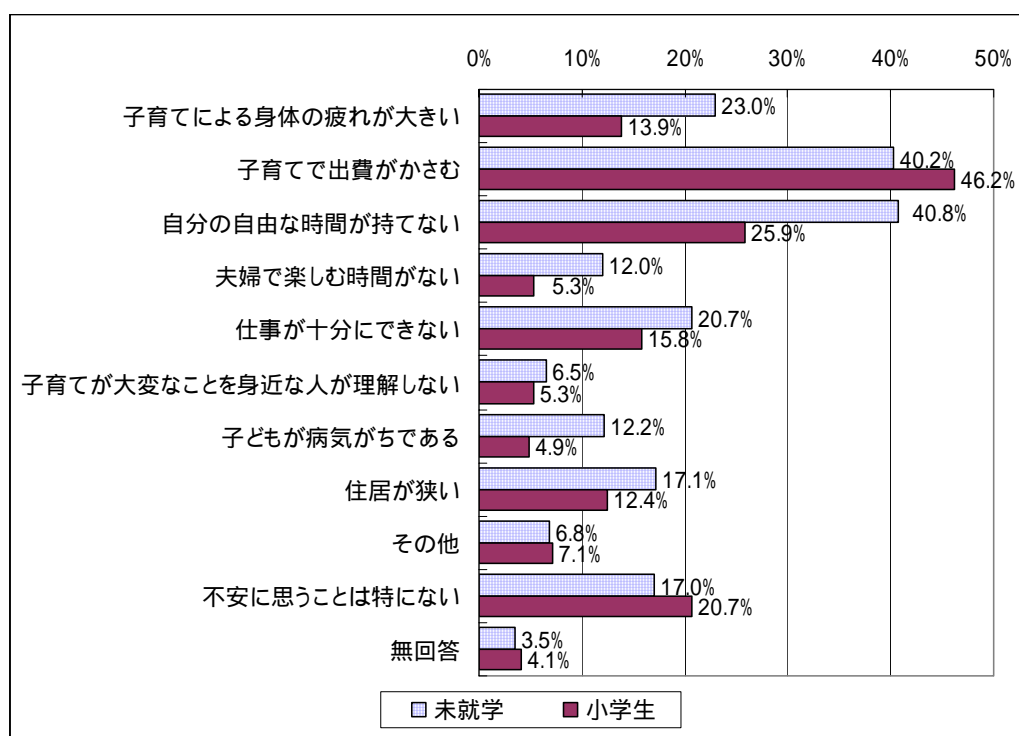
子育てに関して日常悩んでいること等を見てみると、未就学では「子どもを叱りすぎに感じる」46.9%、「病気や発育・発達」45.5%、「食事や栄養」39.9%となっています。小学生では「友達づきあい」41.7%、「子どもの教育」39.5%、「子どもを叱りすぎに感じる」36.1%となっており、未就学・小学生ともに子どもを叱りすぎに感じるが上位となっています。



(複数回答)

(3) 子育てをする上で特に不安に思っていること・悩んでいること

子育てをする上で、特に不安に思っていること・悩んでいることを見てみると、未就学では「自分の自由な時間が持てない」40.8%、「子育てで出費がかさむ」40.2%、「子育てによる身体の疲れが大きい」23.0%となっています。小学生では「子育てで出費がかさむ」46.2%、「自分の自由な時間が持てない」25.9%、「不安に思うことは特にない」20.7%となっています。未就学・小学生ともに、子育てにかかる費用を不安・負担に思っている方が40%以上を占めており、経済面での支援が求められていると考えられます。

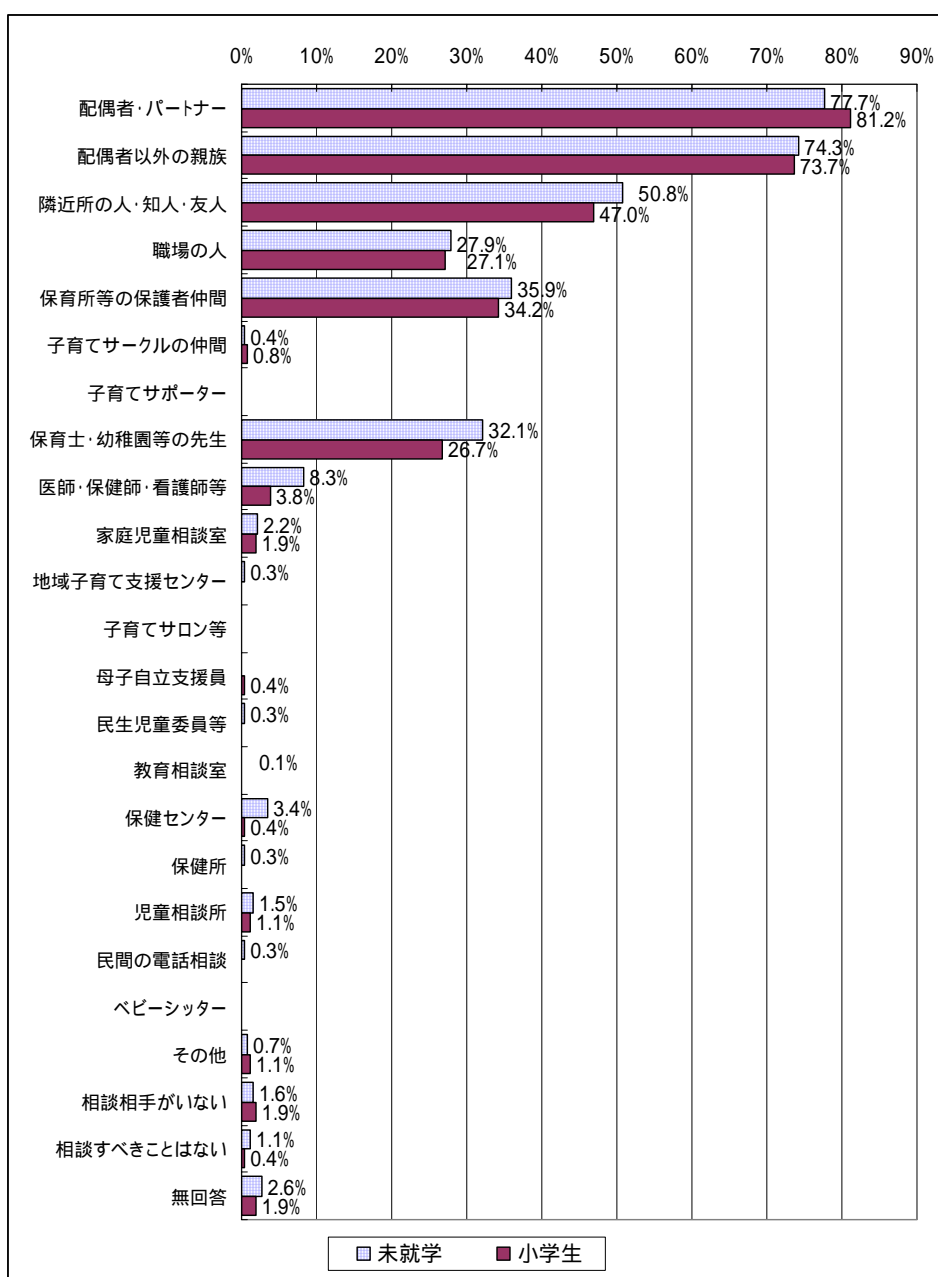


(複数回答)



(4) 子育てに関する悩みや不安の相談相手

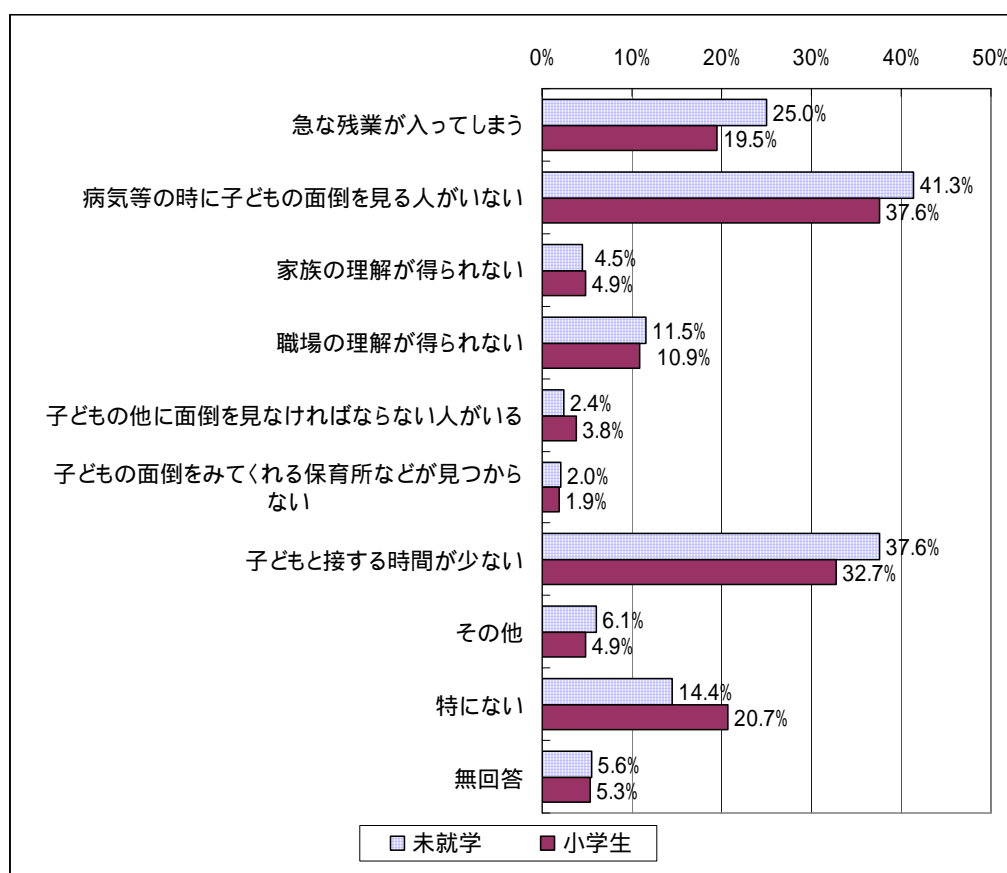
子育てに関する悩みや不安の相談相手を見てみると、「配偶者・パートナー」が未就学 77.7%、小学生 81.2%、「配偶者以外の親族」が未就学 74.3%、小学生 73.7%、「隣近所の人・知人・友人」が未就学 50.8%、小学生 47.0%となっています。未就学・小学生ともに上位項目が同じであり、身近な親族や知人に相談する方が多くなっています。



(複数回答)

(5) 仕事と子育てを両立させる上で大変なこと

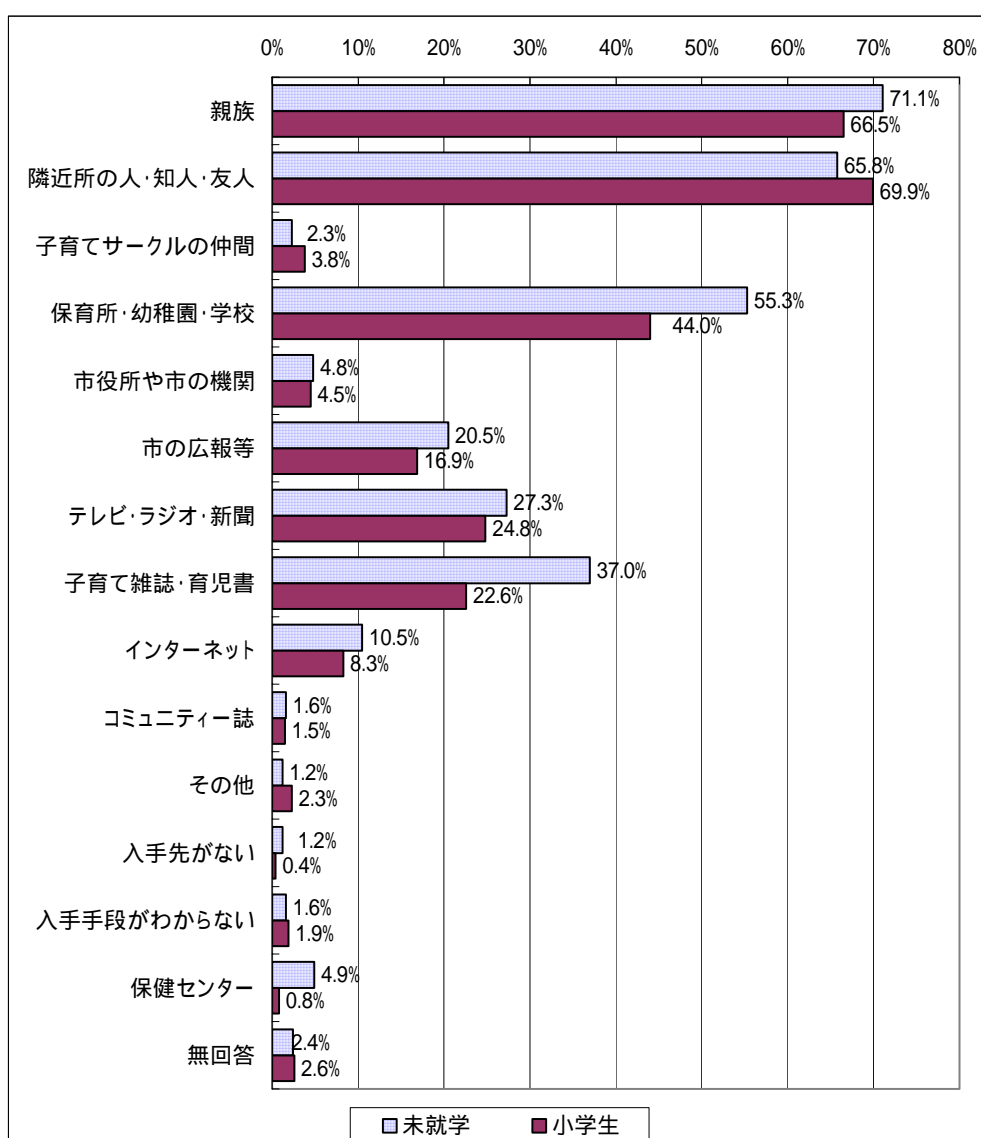
仕事と子育てを両立する上で大変なことを見ても、未就学では「病気等の時に子どもの面倒を見る人がいない」41.3%、「子どもと接する時間が少ない」37.6%、「急な残業が入ってしまう」25.0%、小学生では「病気等の時に子どもの面倒を見る人がいない」37.6%、「子どもと接する時間が少ない」32.7%、「特にない」20.7%となっています。未就学・小学生ともに上位二項目は同様となっており、病気や残業時の急な対応に困っている方が多くなっています。



(複数回答)

(6) 子育てに関する情報の入手先

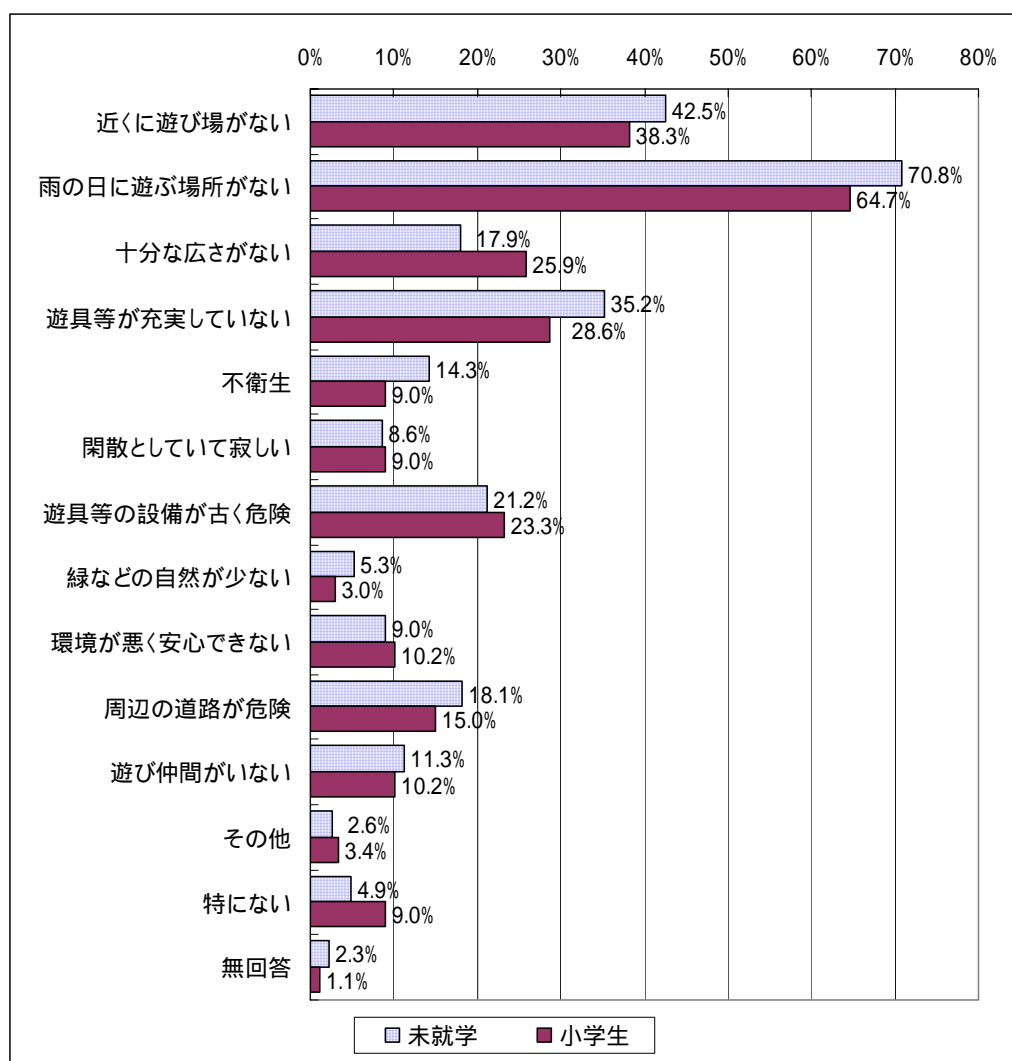
子育てに関する情報の入手先を見てみると、未就学では「親族」71.1%、「隣近所の人・知人・友人」65.8%、「保育所・幼稚園・学校」55.3%、小学生では「隣近所の人・知人・友人」69.9%、「親族」66.5%、「保育所・幼稚園・学校」44.0%となっており、上位は同じ傾向が見られます。育児に関する情報を親族や知人など身近な人から入手している方が多くなっています。



(複数回答)

(7) 家の近くの遊び場について日頃感じていること

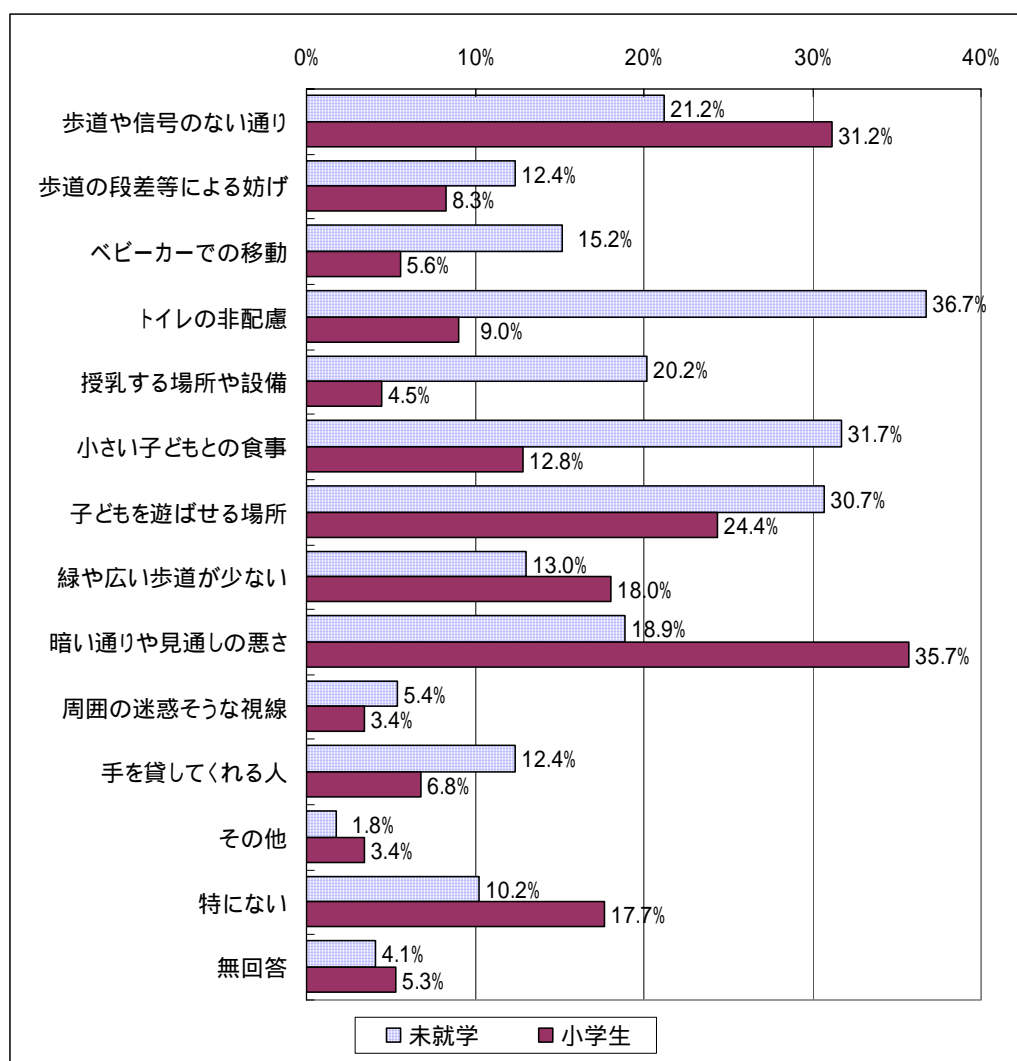
家の近くの遊び場について日頃感じていることを見てみると、未就学・小学生ともに上位3項目が同じで、「雨の日に遊ぶ場所がない」で未就学 70.8%、小学生 64.7%、「近くに遊び場がない」で未就学 42.5%、小学生 38.3%、「遊具等が充実していない」で未就学 35.2%、小学生 28.6%となっています。近場で、雨の日にも遊べるような場所を求める声が多くなっています。



(複数回答)

(8) 子どもとの外出の際困ること・困ったこと

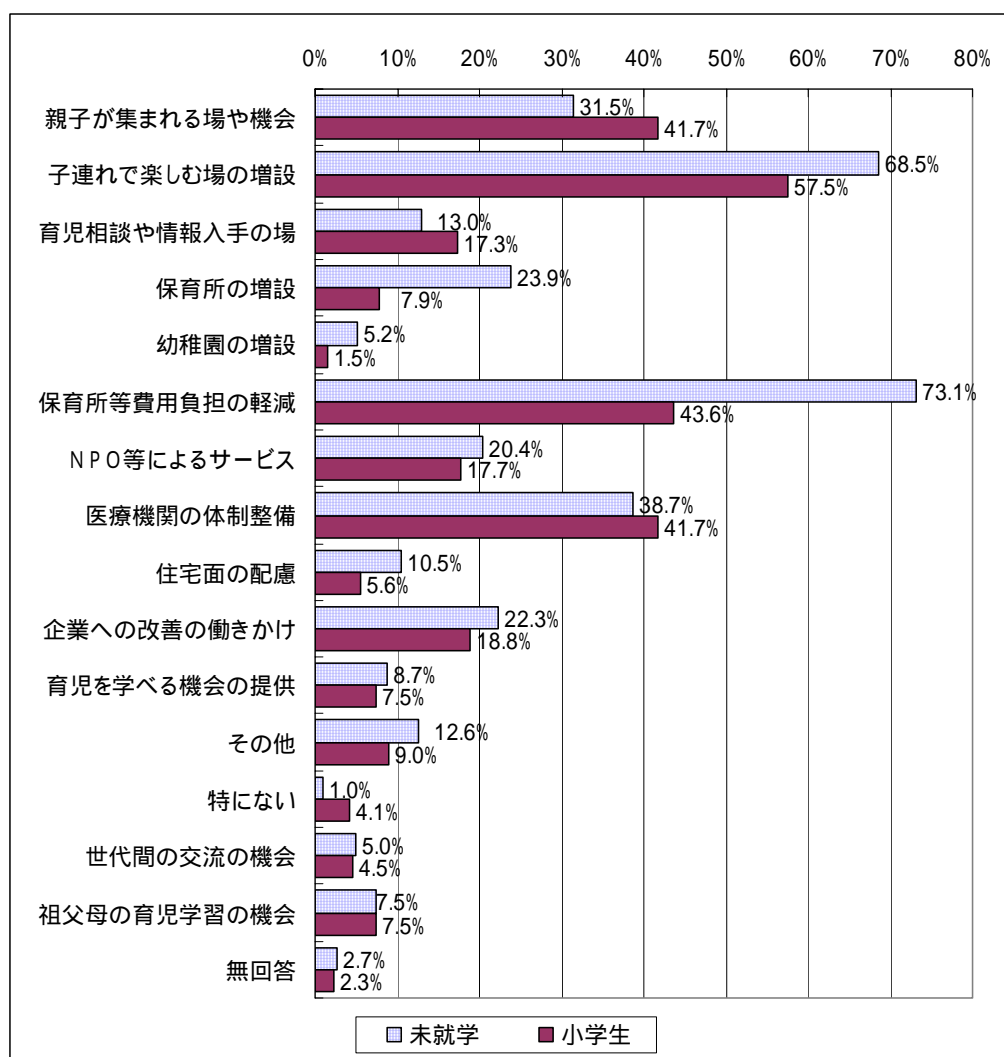
子どもとの外出の際困ること・困ったことを見てみると、未就学では「トイレの非配慮」36.7%、「小さい子どもとの食事」31.7%、「子どもを遊ばせる場所」30.7%、小学生では「暗い通りや見通しの悪さ」35.7%、「歩道や信号のない通り」31.2%、「子どもを遊ばせる場所」24.4%となっています。未就学ではトイレが使いにくい現状となっています。



(複数回答)

(9) 充実を図って欲しい子育て支援

充実を図って欲しい子育て支援を見てみると、未就学では「保育所等費用負担の軽減」73.1%、「子連れで楽しむ場の増設」68.5%、「医療機関の体制整備」38.7%、小学生では「子連れで楽しむ場の増設」57.5%、「保育所等費用負担の軽減」43.6%、「親子が集まれる場や機会」・「医療機関の体制整備」41.7%となっています。未就学では保育所等の費用負担の軽減を望まれる方が70%を超えており、負担に思われている方が多くなっています。また未就学・小学生ともに「子連れで楽しむ場の増設」が上位に入っており、施設の増設や機会の増加が望まれています。

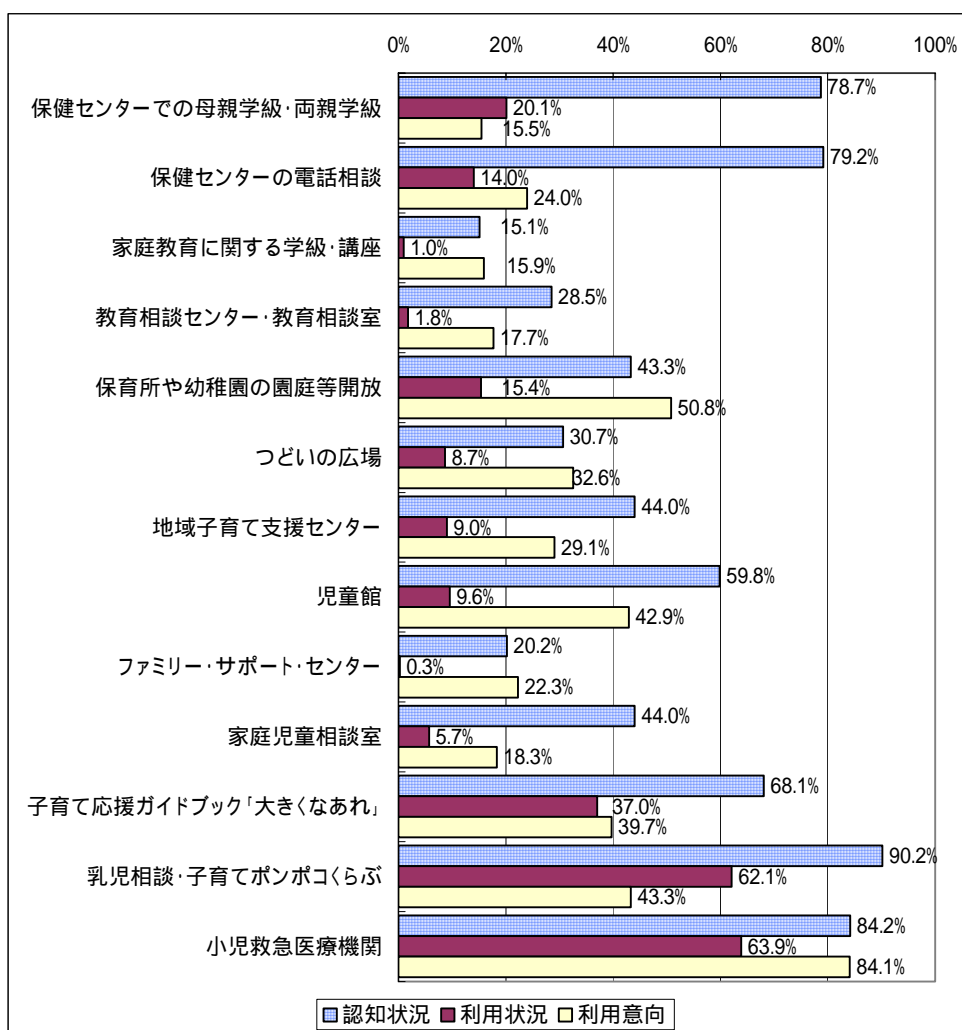


(複数回答)

(1 0) 子育て支援サービスの認知状況・利用状況・利用意向

[1] 未就学児童

未就学児童の子育て支援サービスの認知状況・利用状況・利用意向を見ると、「保健センターでの母親学級・両親学級」「保健センターの電話相談」がともに認知状況が 80% 近くあるものの、利用状況・利用意向ともに 10～20% 代と低くなっており、認知しているものの利用に結びついていない状況となっています。また「小児救急医療機関」では認知状況・利用状況・利用意向 60% 以上と高くなっています。子どもは体調が変化しやすいため、今後もニーズはあるものと思われます。



[2]小学生児童

小学生児童子育て支援サービスの認知状況・利用状況・利用意向を見てみると、未就学児童同様、「小児救急医療機関」では認知状況・利用意向ともに約70%以上と高くなっています。子どもは体調が変化しやすいため、今後もニーズはあるものと思われます。

